

令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	いわき市	
施 設 名	いわき芸術文化交流館(アリオス)	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	26,060	(千円)
	公 演 事 業	16,415 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	9,645 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	いわきアリオス落語会 (第17回、第18回、 第19回)	3年4月～4年3月	橘家文蔵、林家彦いち、桃月庵白酒、林 家きよ彦、ばいそん、春風亭柳枝、柳家喬 太郎、立川談笑、三遊亭兼好、柳家一琴、 柳家三三、柳家小はげ、橘蓮二(トーク)	目標値	1,544
		中劇場		実績値	415※
2	市内文化施設等連携 事業	3年5月～7月	tupera tupera(絵本作家)、NUU(歌)、良 原リエ(アコーディオン)、シーナ・アキコ (音楽家)、大塚直哉(チェンバロ)、サクソ フォンカルテット SOU☆四重奏	目標値	530
		音楽小ホール ほか		実績値	1,614※
3	アリオス・ワンコインコ ンサート①プレミアムシ ートVol.3 ②地域おで かけアリオス(落語)	3年4月12日	林家彦いち、林家きよ彦、ばいそん	目標値	340
		八幡谷やまたまや		実績値	31※
4	こどもの劇場 2021① (夏)マームとジプシー 『めにみえない みみに したい』②(秋) BEBERICA theatre company『What's	3年8月～4年3月	弓井茉那(BEBERICA theatre company)、 瀧腰教寛、笠原麻美、松村政美、松村志 野、	目標値	210
		大リハーサル室 ほか		実績値	65※
5	吹奏楽とあゆむまちい わき発信事業アンサン ブルの魅力「なぎさブラ スゾリステン」	3年11月7・8日	なぎさプラスゾリステン【神代修、高橋敦、 田中敏雄、阿部一樹(トランペット)、吉永 雅人、阿部磨(ホルン)、池上亘、倉田寛、 篠崎卓実(トロンボーン)、池田幸広(チュ ーバ)、竹島悟史(パーカッション)】	目標値	1,110
		大ホール ほか		実績値	221※
6	リージョナル・シアター 2021①いわきアリオス演 劇部 U-30(仮称) ②市 民参加型プロジェクト(仮 称) ③劇団ごきげんよう	3年5月～4年3月	小野寺修二、藤田桃子、崎山莉奈、大庭 裕介(以上、カンパニーデラシネラ)、オー ディションによって選ばれた10名、[作・演 出]藤田貴大(マームとジプシー)、[出演 者]長谷川洋子、[演出]永山智行(劇団こ ふく劇場)、劇団ごきげんよう	目標値	608
		大リハーサル室 ほか		実績値	452※
7	パルコ・プロデュース 『海王星』	—	演目変更による対象公演は中止	目標値	988
		—		実績値	—
8	チェンバロコンサートの ススメ 3	3年4月10・11日	武久源造(チェンバロ)、山川節子(チェン バロ:モーツァルト=連弾のみ)	目標値	100
		音楽小ホール		実績値	97
9	小山実稚恵 ピアノ・リ サイタル	4年1月22日	小山実稚恵(ピアノ)	目標値	630
		大ホール		実績値	363※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	おうちでアリオス アート・リレー ～市民文化芸術団体編	3年6月5・6日(中止)	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	10,000名
		大ホール ほか		実績値	-※
2	おでかけアリオス	3年6月～4年2月	出演:地元演奏家(2組)、和ノ音(邦楽)、加藤昌則(作曲・ピアノ)、田上豊(演劇)、んまつーポス(ダンス)、カンパニーデラシネラ(マイム) ほか	目標値	2,000名
		市内小中学校ほか		実績値	1,650名※
3	キッズルームシアター	3年10月～11月	NPO あそび環境 Museum アフタフ・バーバン、須貝知世(アイリッシュ・フルート)、小林麻紀(ピアノ)、綾瀬マリア(おはなし)	目標値	180名
		中リハーサル室 ほか		実績値	45名※
4	たんけんアリオス	3年12月25・26日	[構成・演出]大信ペリカン(劇団シア・トリエ)、[出演]佐藤隆太(客演)、流風青葉(客演)	目標値	160名
		中劇場		実績値	62名※
5	いわきアリオス・まちなか連携プロジェクト	3年10月1・2日	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	①いわき街なかコンサートのべ2万名(2日間) ②いわきポレポレ映画祭:のべ8,000名(17日間)
		中劇場		実績値	—※
6	アリオス 子どもの弦学校／アリオス 大人の弦学校	大リハーサル室 ほか	塩貝みつる(ヴァイオリン、こども楽器プロジェクト主宰)、平野一彦(ヴァイオリン、「楽器図書館」長)、弦楽四重奏団ヴィルタス・クワルテット・メンバー、赤津真言(バロックヴァイオリン)、武澤秀平(バロックチェロ)	目標値	子ども:10名程度／大人20名程度
		3年6月～4年3月		実績値	44名
7	Alios for the Next Generation	-	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	100名
		-		実績値	—※

8	文化教養シリーズ—— 音楽の楽しみ方を、今 一度考えるどうする、コ ロナ後の音楽会！？ ～文化芸術プロデュー サーVS 音楽学芸員 (仮題)	3年6月～11月	浦久俊彦(文化芸術プロデューサー、岐阜 サラマンカホールプロデューサー、文筆 家)、山田和樹(指揮者、オンライン参加)、 長野隆人(いわきアリオス支配人)、中島さ ち子(数学研究者、ジャズピアニスト)、斎 藤めぐみ(いわき交響楽団コンサートマス ター)、佐藤和子(福島県合唱連盟いわき 支部副支部長)、小山田浩(福島県立湯本 高等学校吹奏楽部顧問)	目標値	49名
		音楽小ホール ほか		実績値	131名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割等(ミッション)や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

◆社会的役割(ミッション)と事業の組み立て

本市の特性は、中核市として市場規模を有しており、興行等においても一定の集客が見込める都市である。文化芸術に関心がある人口も多く、いわき市文化団体には501団体・3,800名が登録されており、公民館活動など中高年層を中心とした”草の根的”な文化活動も活発であることが強みである。

一方、弱みとして、東北第2位、福島県第1位の人口を有しているが、全国規模で行われる興行ツアーでは、新幹線沿線の都市で行われることが多く、郡山市や福島市が中心である。市街地においては、モータリゼーションの進展に伴い、商業・サービス業の郊外移転が進んでおり、街なかの各種イベント等も縮小傾向と、街の賑わいが喪失しつつあり、街の魅力が乏しくなっている。中山間地域では基幹産業の農林業の衰退等に伴い、過疎化が顕著である。芸術文化面では中山間地域においては車の運転ができない学生や高齢者がそれらに触れる機会が得にくい環境にある。各種災害の多発、街の魅力の低下、医者不足など子育て環境面での不安など様々な要因により、若年層の人口流出、少子化が進行している。

これらの特性を鑑み、令和元年度より4年間計画で下記4つのミッションを掲げ、6つのビジョン(戦略)のもと、それらに適した事業を計画し実施している。

◎ミッション1《全市民の「心のライフライン」となる文化芸術を届ける》

→ **【ビジョン1 質の高い舞台芸術に出会い、世界へ繋がる場をつくる】**

対象事業:【公演1】いわきアリオス落語会 【公演7】パルコプロデュース「海王星」
【公演9】小山実稚恵ピアノリサイタル

【ビジョン2 誰もが気軽に様々な文化芸術活動に触れられる機会をつくる】

対象事業:【普及2】おでかけアリオス 【普及3】アリオス・キッズルームシアター
【公演3】アリオス・ワンコイン・コンサー 【公演4】こどもの劇場 【公演8】チェンバロ コンサートのススメ

◎ミッション2《連携の徹底的な強化により地域の活性化にコミットする》

→ **【ビジョン3 地域と人と共に歩み、様々な機関との連携を強化しともに市民生活を支援する】**

対象事業:【公演2】市内文化施設等連携事業 【普及5】まちなか連携プロジェクト

【ビジョン4 市民による文化芸術の創造活動を支援する】

対象事業:【普及1】文化春祭り 【公演6】リージョナルシアター

◎ミッション3《市民参画により文化芸術のある社会を次世代へ継承する》

→ **【ビジョン5 文化芸術の情報集積と発信、交流の場となる】**

対象事業:【公演5】吹奏楽とあゆむまちいわき発信事業
【普及7】Alios for the Next Generations 【普及8】文化教養シリーズ

◎ミッション4《地域に好循環をもたらす持続可能なモデルの構築》

→ **【ビジョン6 文化芸術に関わる人材を発掘、育成する】**

対象事業:【普及4】たんけんアリオス 【普及6】子どもの弦学校・大人の弦学校

◆事業の進行について

新型コロナウイルスの感染拡大の影響は大きく、県や市がまん延防止策を発出した際には事業の中止・延期・縮小を求められ、17事業の内3事業のみが計画通りの実施、その他の事業は中止を伴った事業が5事業、他の事業は日程変更・内容変更・会場変更などを行なったの実施となった。変更が生じてプログラムを市民に提供できたことは、様々な制限が多くなった市民の日常生活に心に潤いある生活を取り戻す一助となることができた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

プロの実演家を講師に市民が舞台創作を行う事業や、市民の生活の中に文化芸術を届けるアウトリーチ事業などを通し、市民が創造的な日常を送る一助となっている。(文化的意義)

若手の実演家をオーディションで選考しアウトリーチプログラムを創る研修事業や、舞台技術基礎講座など、本市で文化芸術を通して生活を送る市民の育成事業を通して、社会的貢献をしている。(社会的意義)

地方の劇場・音楽堂での予算規模では難しい招聘公演や一流の実演家の招聘及び、市民の文化芸術活動の支援を継続して可能となっており、市内だけではなく、市外・県外からも公演鑑賞、ワークショップなどへの参加があることから、遠方からの集客及び本市の経済波及効果の一助となっている。(経済的意義)

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

ミッションと事業戦略を立て、事業立案そして実践している。また、予算を持たずに市民生活を支援する活動も多く行なっていることから、それぞれの事業や活動に関わった人数と機関数及び実施回数等を目標に設定した。

《公演事業》

目標1: 事業毎の入場者・参加者の目標値の達成

→ No1.落語会 26.9% No2.施設連携 34.5% No3.ワンコイン 38.8%、No.4 こどもの劇場 81.3%
No5.吹奏楽 19.9%、No6.リージョナル 74.3%

新型コロナウイルスの影響により、販売席数を半分に減らしたこと、広報等を積極的にうてなかったこと、買え控えが多くあったことなど全ての事業において目標値を達成できなかった。
ただし、オンライン生配信に変更した事業番号2は目標値を大きく上回る結果となった。

目標2: 様々な機関や団体との連携・関係構築を強化する

→ 市内外関わらず連携・協働する機関・団体数が昨年度より 21 団体増える結果となった。当館単独で事業を運営するよりもプログラム内容や広報の広がり、互いの課題などを解決する糸口になったりと、【ミッション2】の達成に着実に繋がる結果となった。

目標3: 事業以外での生活支援となる活動の充実を図る

→ コロナ禍で従来通りの活動を行えていない団体が多い中、当館が協力することで実施の方向性を示せたり、補助することで実施可能になる活動があったりと、結果昨年度より新たに7つの活動支援を増やし行った。このことにより【ミッション4】に掲げる“本市ならではの持続可能な「文化芸術のあふれるまち」を構築する”の達成に向けて繋がる結果となった。

目標4: 総合的な当館に対する満足度を 97.5%以上とする

→ No1.落語会 91.2% No2.施設連携 68.4% No3.ワンコイン 73.0%、No.4 こどもの劇場 97.5%
No5.吹奏楽 83.1%、No6.リージョナル 75.6% 合計 81.4%

全体的に満足度の低下が見られる結果となった。新型コロナウイルスの影響で、公演日の変更や様々な制限などが要因となり事業参加者の捉え方に変化が現れたように考えられる。また実施会場が当館で無い場合もその要因の1つになっている傾向が見られた。

《普及啓発事業》

目標1: 事業毎の入場者・参加者の目標値の達成

→ No1.春祭り 中止 No2.おでかけアリオス 98.2% (3 回中止含む) No3.キッズルームシアター 40.9% (4 回中止含む) No4.たんけんアリオス 95.8%、No5.まちなか連携 中止、No6.弦学校 %、No7.文化教養 124.8%

新型コロナウイルスの影響により、中止となった事業が多くあった。特徴として当館単独での実施事業では無く、関係団体との協働で実施する事業において中止が相次いだ。実施できた事業においては概ね目標を達成できた。

目標2: 様々な機関や団体との連携・関係構築を強化する

→ 市内外関わらず連携・協働する機関・団体数が昨年度より 21 団体増える結果となった。当館単独で事業を運営するよりもプログラム内容や広報の広がり、互いの課題などを解決する糸口になったりと、【ミッション2】の達成に着実に繋がる結果となった。

目標3: 事業以外での生活支援となる活動の充実を図る

→ コロナ禍で従来通りの活動を行えていない団体が多い中、当館が協力することで実施の方向性を示せたり、補助することで実施可能になる活動があったりと、結果昨年度より新たに7つの活動支援を増やし行った。このことにより【ミッション4】に掲げる“本市ならではの持続可能な「文化芸術のあふれるまち」を構築する”の達成に向けて繋がる結果となった。

目標4: 総合的な当館に対する満足度を 97.5%以上とする

→ 普及啓発事業の全事業の満足度の平均は、結果 89.6%となり、目標達成には至らなかった。全体的に満足度の低下傾向が見られるが、開館当初から長年継続実施しているアウトリーチ事業「おでかけアリオス」のみ目標を達成(97.6%)しており、新型コロナウイルスの影響により大勢人が集まる劇場・音楽堂よりも、対象者の生活圏内で限られた方のみを集め事業を実施した方が安心して事業に参加できることから、心理的に当館への満足度が高くなった可能性がある。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

令和3年度の各事業について、当初計画に基づき準備制作等進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、実施直前で県や市から感染拡大の防止策や、まん延防止重点処置が発出されたりと、ほぼ全ての事業で計画通りに実施することは困難であった。

アウトリーチ事業においては、教育委員会から学校側に発出されている感染対策が別があり、一般対象の事業よりも制限が多く、各校の校長判断によって実施の可否や内容等に大きな影響を受けた。そのため、通常よりも学校側とのやりとりの回数や実演家との協議の時間は増えたものの、その時にできる最善の策を講じ、1つひとつ丁寧に事業を組み立てることができたのは、持続可能なモデルの構築にも繋がった。

これらについては、音楽大学のアートマネジメント研究会での発表に繋がったり、事業を通して得た技術等をアウトリーチ事業から派生して学校側から相談があったオンラインを活用したプログラム創りと技術提供を行うことに繋がったり、中学校の鑑賞授業やキャリア教育に繋がったりと、ミッション2「連携の徹底的な強化により地域の活性化にコミットする」の達成に近づくことができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業費についても同様で、当初計画通りに進めることは不可能だった。

公演事業においては、9事業中、2事業で新型コロナウイルス感染症が理由で2つのプログラムが中止となり、その事業の執行率は65%と39%という結果となった。その他の事業においては、日程や内容の変更はあったものの、執行率80%~100%となり、ほぼ計画通りの執行となった。

収入においては、感染対策を講じ、客席設定を通常より減らしたことや、感染拡大による買え控え、県や市の感染拡大対策を講じる必要があり、有料公演から関係者のみの無料公演に変更する事業もあった。そのため、当初計画通りに観覧料収入を得た事業は無く、関係者のみとなった公演の0%を含め当初計画の平均38%のみの観覧収入という結果となった。

普及啓発事業においても同様、8事業中、5事業で新型コロナウイルス感染症が理由で中止となったプログラムを含んではいるが、当初計画通りに執行できた事業もあったことから、執行率は中止が伴った事業は8%~66%、実施できた事業は平均81%の執行率となった。

収入においては、観覧料及び参加費を計画していた事業が1事業のみであり、その事業においては、当初計画よりも多く141%の収入という結果となった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった(と認められる)か。

当館は開館以来、事業(ソフト面)や施設(ハード面)に対し多くの賞を受賞している。

【第33回有馬賞】

平成25年には、国内最高峰の実演芸術団体であるNHK交響楽団より、「第33回有馬賞」を受賞した。当館のアウトリーチ事業「おでかけアリオス」等が、震災復興への貢献や、音楽の普及に寄与してきたことが評価され、開館当初から業務提携を結び、東北唯一の定期演奏会を実施してきたことで、NHK交響楽団の活動に貢献したことが、受賞の理由となっている。

【地域創造大賞(総務大臣賞)】

平成26年には、文化芸術の振興による創造性豊かな地域づくりの貢献が評価され、(一財)地域創造より「地域創造大賞(総務大臣賞)」を受賞。

【文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)】

平成26年には、行政が住民、企業や大学と協力し、地域の特色を活かした文化芸術活動によって、地域振興を図り、顕著な成果をあげたとして、「文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)」を受賞。

【キッズデザイン賞2017】

平成29年には、宮崎県を拠点に活動する実演芸術団体「んまつーポス」との協働により、子どもの豊かな感性や創造性に寄与する活動等で成果をあげたとして、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会より「キッズデザイン賞2017」を受賞した。

これらの受賞歴が示すように、当館が地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮した事業を展開していることを、対外的にも評価されてきた。それは開館から今まで、様々な事業を高い水準で実施してきたことが要因としてあげられる。

鑑賞事業においては、常に芸術性の高さ、内容の独創性を念頭に置いて実演芸術団体を選び、市民の「世界への窓」たることを目指してきた。

一方で、アウトリーチやワークショップ、市民と一緒に作りあげる創造事業では、常に市民の目線に立ち、一方的に文化芸術を押し付けるのではなく、本市で育まれてきた人や土地を活かした事業を目指してきた。

文化芸術における最高峰の体験と、本市に根差した文化芸術の育成を同時に行うことで、地域の文化拠点としての役割を存分に発揮することができたと考えている。

		表彰名	表彰者	受賞の理由	受賞者
ソフト面における受賞	①	第33回有馬賞 受賞:平成25年10月5日	NHK交響楽団	おでかけアリオス等による震災復興への貢献。音楽の普及、NHK交響楽団への貢献。	いわき市
	②	地域創造大賞:総務大臣賞 受賞:平成26年1月17日	(財)地域創造	文化芸術の振興による創造性豊かな地域づくりの貢献。	いわき市
	③	文化庁長官表彰 (文化芸術創造都市部門) 受賞:平成26年3月31日	文化庁	行政が住民、企業や大学と協力し、地域の特色を活かした文化芸術活動によって、地域振興を図り、顕著な成果をあげた。	いわき市 ※本庁舎ロビーに展示
	④	キッズデザイン賞2017 受賞:平成29年度	特定非営利活動法人 キッズデザイン協議会	子供の豊かな感性や創造性に寄与する活動等を行い、成果をあげた。	いわき芸術文化交流館 宮崎大学高橋のみ子研究室 んまつーポス
【受賞一覧】 ハード面における受賞	表彰名		賞の内容		受賞者
	⑤	照明普及賞 受賞:平成21年5月21日	照明学会	照明学会により優秀な照明施設に授与される賞	いわき市 佐藤尚巳 湯山康樹
	⑥	日本建築家協会優秀建築選 受賞:平成21年度		優秀な建築作品に授与される賞	佐藤尚巳建築研究所 清水建設株式会社
	⑦	国際建築賞2010 受賞:平成22年5月		世界各地の最先端の優れた建築デザインに贈られる賞で、世界的に最も名誉ある賞のひとつ	佐藤尚巳建築研究所 清水建設株式会社
	⑧	劇場技術者協会 建築賞優秀建築賞:平成22年7月		アメリカの劇場技術者協会が世界規模で優れた劇場施設に贈る賞。(国内3施設目)	いわき市
	⑨	北米照明学会照明賞優秀賞 受賞:平成22年7月5日		芸術的、科学的見地から優れた照明デザインに与えられる、世界的に権威のある賞のひとつ	佐藤尚巳 湯山康樹
	⑩	第51回BCS賞 受賞:平成22年11月15日		創立100周年を迎える「建築業協会」が、毎年我が国の優れた建築物に贈る賞。国内の建築関係者からも毎回大きな注目を集める権威ある賞	建築主:いわき市 設計:佐藤尚巳建築研究所・他 施工:清水建設株式会社・他
⑪	第31回福島県建築文化賞 優秀賞 受賞:平成26年度		福島県において、地域の周辺環境に調和し、かつ景観上優れている建築等に贈られる賞	いわき市	

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった(と認められる)か。

当館の4カ年事業戦略(2019年度～2022年度)において、最も重きを置いているのが『連携』事業である。事業の特徴としては、市内の文化施設と連携したコンテンツを開発することで、聴衆には当館単独ではカバーしきれない「地域資源」の学びと、当館の強みである「実演芸術」の魅力発見の両面を効果的に提供できる点大きい。

令和3年度の連携事業は、市内公共施設および民間劇場と連携することにより、実演芸術に興味を持つ市民だけでなく、幅広い市民に訴求する事業を展開できた。コロナ禍により会場の収容人数が減り、入場料収入も減ってしまったが、助成のおかげで実施することができた。また、同じくコロナの影響で予定していた会場が使用できなくなり、急遽オンラインでの開催としたが、自宅待機を余儀なくされている多くの方に実演芸術を届けることができた。助成のおかげで撮影・配信する機材・人員の確保ができた。アクアマリンふくしまとの連携により、当館の強みである「実演芸術」に水族館のコンテンツを活かした事業を展開。互いの施設での公演やイベントを通じて、「地域資源」と「実演芸術」への興味を喚起させる機会をつくることができ、実施に向けてそれぞれの顧客と聴衆にアプローチし、想定より多くの方に参加してもらうことができた。

演劇を軸とした市民との創造事業「リージョナル・シアター」も同じく当初の計画のままでは実施が困難であったが、すべての事業を最後までやり遂げることができた。本番の一般公開を中止し、関係者のみの開催となった事業もあるが、実演芸術において最も重要である「観客の前で上演する」ことが実現できたことは、大きな意義があった。「市民参加」を軸に、様々な対象に向けて内容の異なる事業を実施したが、どの参加者にも新しい発見や実演芸術に関わる喜びを与えることができた。コロナ禍により様々な活動が難しい状況であるが、年齢的なことや、環境によって、今しか参加できない方も大勢いる。当館のような公共施設が感染対策を万全にしながら実施することで、市民に安心して参加してもらい、市民の「今」を掬い(救い)取ることで、日常生活に潤いをもたらすことができた。

アウトリーチ事業「おでかけアリオス」でも、これまで実施した新型コロナウイルス感染症対策を講じたアウトリーチのスキルを活かしつつ、より状況に合ったプログラムづくりやオンラインを活用した実施方法に取り組み、学校や地域コミュニティの場で間近で実演芸術を鑑賞・体験する機会を提供できた。市民が安心してアウトリーチ事業に参加できるように、関係者との連携や情報共有を心掛けたことで関係の強化にも繋がった。助成を受けたことで学校だけでなく地域でのアウトリーチも参加費無料で実施でき、幅広い年代の市民が気軽に文化芸術に触れられる場をつくることができた。感染症の影響で令和2年度から延期した「おでかけアリオス研究会」のオーディションを実施し、地元在住・出身の実演芸術家が第4期メンバーとして活動を開始した。アウトリーチの実施は映像収録に変更となったが、学校のニーズと感染症に対応したプログラムづくりを丁寧に行い、アウトリーチのスキルを向上することができた。

アリオス☆弦学校においては、こども楽器プロジェクトとの連携により、世界的に活躍する演奏家やNHK交響楽団の団員が講師を務めるという、指導水準の高さと、同プロジェクトから当館が預託されている「楽器図書館」の活用により、単なるヴァイオリンを習っている子どもの技術的な底上げにとどまらず、全く初心者にも楽器を無償貸与して市内のヴァイオリン教室を紹介したり、さらに成長期の子どもに対しては分数楽器の貸与によってその成長をサポートするなど、子どもがヴァイオリンを習う時に発生する大きな負担を軽減することができた。ヴァイオリンに興味を持ったらスムーズに始めることができ、市民の文化水準自体を向上させる効果が期待できる。参加者の子どもたちが習っている指導者の皆さんにサポートしてもらいながらスムーズに運営ができ、大人の弦学校では講師の先生の送迎や、受講の取りまとめに関して運営の協力も参加者から得られた。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響があり、当初計画していた規模の事業実施ができなかったが、それでも本事業を実施したことで、今まで本市のような地方都市ではプロの指導を受ける機会さえも限られていた状況から、少なくとも複数回そうした機会を得られたことと、プロの演奏を間近で聞いて学ぶ機会が得られたことで、子どもにとっても大人にとっても、大きな変化をもたらすことができたと考えられる。今後も事業を継続することで、のびのびと弦楽器を学び、技術の向上を目指す意欲を育てる環境づくりに寄与できると思う。毎回の事業に一人ずつの嚆矢を呼ぶのみならず、大人に向けてはパート毎にそれぞれ講師を呼ぶことができ、よりきめ細やかな内容の事業が実施できた。さらにレクチャーや、講師によるコンサートを子どもたちに間近で聞かせる機会も作ることもできた。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する(と認められる)か。

【運営方式について】

当館は開館以来、事業運営を「市の直営」、施設維持管理を「PFI事業者による管理」とする併用方式を用いている。

【雇用について】

① 事業の公共性の視点

この施設として、公共性・公平性の視点に立った利用者サービスを円滑に進めるとともに、市の直営方式に固有の庶務・財務事務を適正に処理し、専門スタッフを中心とした自主企画事業の推進をサポートするため、市の正規職員(11名、うち専従10名)を配置。

② 事業展開の有効性の視点

劇場・音楽堂運営、舞台芸術に関しては、特殊かつ高度な技術を要するものであることから、各分野において専門的かつ高度な知識・経験を有する優れたスタッフを、全国から招聘・募集し、会計年度任用職員(33名)を雇用。

これらの運営および雇用方式により、以下のメリットが得られていると考えている。

- ◇専門分野におけるスタッフを会計年度任用職員で雇用することで、市の正規職員のような人事異動が無いことから専門性の継承が確保される
- ◇会計年度任用職員として雇用した専門スタッフは単年度契約更新を基本とし、最大5カ年の雇用。以降の更新は人事評価を行った上で決定しており、職員の質の維持が可能
- ◇会計年度任用職員の退職に伴う補充採用に当たっては、地元在住者の採用を選考の一視点としており、地元の人材育成を志向している
- ◇市の正規職員の配置により、市特有の財務事務、庶務事務に対応出来るとともに、関係部署との円滑な連絡調整が可能
- ◇舞台設備の補充や設備機器の補修は、PFI事業者との連携体制により、即時の対応を可能としている
- ◇当館の建設準備時代から築いてきた市民や市民団体とのネットワークを有効に引き継ぐことが出来る

また、現在の運営方式(直営とPFI制度の併用)は令和4年度まで(15年間)が事業期間となっていることから、令和5年度以降の運営体制に関しては、利用者・市民へのヒアリング調査、他館の状況調査、今後の大規模改修計画等を踏まえながら検討を行った。その結果、令和14年度までの10年間について、事業運営は直営を継続し、維持管理業務は包括的民間委託で行うこととしている。

【収益基盤と財源について】

開館以降当該水準を大きく逸脱することなく推移していることから、館の運営が安定した状態にあると言える。しかしながら、今後、人口減少や少子高齢化などによる社会構造の変化の中で、財政上の制約が強まることが想定され、当館においても、事業運営上の本旨に重点を置きながらも、経費縮減と自主財源の獲得により一層意を用いる必要があると考えている。

【各方面とのネットワーク形成】

全国規模の劇場・音楽堂の職員を対象にした研修への参加および講師としての参加や、他館からの職員研修の受け入れ、当館自主事業での情報交換会の実施、他館との連携事業の実施など、普段より全国の劇場・音楽堂とのネットワーク強化を目指し運営している。また、当館の事業を通し、本市教育委員会の理解の元、市内小中学校へのアウトリーチ事業の実施や、市内の高等学校の文化部への支援活動、教育大学の協同による事業の実施、音楽大学をはじめとする大学等からのインターンシップの受け入れなど、教育機関とのネットワーク強化にも力を入れ運営している。

【施設面】

施設の維持管理に当たっては、市が事業者を選定したPFI事業者(いわき文化交流パートナーズ)と館スタッフが連携し、中長期の維持管理計画に則り、適切な修繕・維持管理を実施している。

また、「いわき市公共施設等総合管理計画」に基づき、施設を将来にわたり総合的かつ計画的にマネジメントしていくための「いわき芸術文化交流館個別管理計画」を令和3年6月に策定した(計画期間:令和14年度まで)。